

1

January

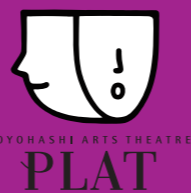
- 6 [土] 第5回桜丘高等学校・ダンス部自主公演「WILD STYLE」◎PLAT主ホール
- 7 [日] 第16回とよはしまちなかスロータウン映画祭 オープニングイベント 三浦友和新春シネマ&トーク◎PLAT主ホール
- 8 [月・祝] 第四回新春天狗連名人会?◎PLATアートスペース
- 11 [木] プラットワンコインコンサート Le deux mai『心躍るリズムとメロディの世界』◎PLATアートスペース
- 13 [土]—14 [日] 第16回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映◎PLATアートスペース
- 20 [土]—21 [日] 穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース
ミュージカル『ナイン・テイルズ〜九尾狐の物語〜』◎PLAT主ホール
- 20 [土]—21 [日] 第16回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映◎PLATアートスペース
- 27 [土]—28 [日] PLAT小劇場シリーズ チェルフィッシュ『三月の5日間』—リクリエーション—◎PLATアートスペース
- 28 [日] 第16回とよはしまちなかスロータウン映画祭 特別企画
クレイジーケンバンド 横山剣主演作品「イイネ!イイネ!イイネ!」シネマ&トーク◎PLAT主ホール
- 29 [月]—31 [水] 豊橋演劇鑑賞会 第264回例会 文学座『女の一生』◎PLAT主ホール

2

February

- 3 [土]—4 [日] 平成29年度東三河高等学校演劇合同発表会◎PLAT主ホール
- 3 [土]—4 [日] 第16回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映◎PLATアートスペース
- 6 [火] 「穂の国の森」これまでとこれから◎PLATアートスペース
- 10 [土] 第16回とよはしまちなかスロータウン映画祭 特別企画 豊橋出身 石川慶監督作品「愚行録」シネマ&トーク
◎PLATアートスペース
- 10 [土]—11 [日] 第16回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映◎PLATアートスペース
- 12 [月・祝] 第10回フットケアフェスティバル in 豊橋◎PLATアートスペース
- 16 [金]—18 [日] パルコ・プロデュース『アンチゴーン』◎PLAT主ホール
- 17 [土] 雅楽「千里」が贈る 子どもに伝えたい伝統文化のコラボレーション『王朝のみやび』◎PLATアートスペース
- 18 [日] 峯島望美ソプラノリサイタル◎PLATアートスペース
- 25 [日] 小春風ライブ9th◎PLATアートスペース
- 28 [水] プラットワンコインコンサート Ensemble Chouette『星の降る夜』◎PLATアートスペース

表紙/宮川彬良「ナイン・テイルズ」
成功を祈願し、豊川稲荷を参拝。
撮影:宮田明里
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
平成29年12月発行 29号[隔月発行]



公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2018年1月-2月
vol. 29



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

CONTENTS

- 表紙 宮川彬良
「ナイン・テイルズ〜九尾狐の物語〜」
2
- INTERVIEW:1
「ナイン・テイルズ〜九尾狐の物語〜」
ファンタジーの世界にいた。宮川彬良
4
- INTERVIEW:2
「ナイン・テイルズ〜九尾狐の物語〜」
人間と狐を行き来する
「変身」する世界を創り出したい。
平山素子
6
- TOPICS
東京交響楽団演奏会
スラヴの名旋律と喜び溢れる自然賛歌
チェコの2大作曲家と
ドイツの楽聖が描いた美しき音楽の風景
8
- INTERVIEW:3
「シャンハイムーン」
愛憎が非常に
複雑なキャラクターです。
野村萬斎
10
- MEMORY:1
ことばと音楽の
コラボレーション
「動物の謝肉祭」
11
- MEMORY:2
「ガンボ」
それはフクザツを生まれの
料理の名前
あるいはフクザツを生まれの
わたしらの歌
12
- INFORMATION
PLAT主催公演情報
14
- 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
芸術文化アドバイザー変更について
FOYER
平田 満のちよつとエッセイ
「ユズリハ」
ESSAY
15
- SUPPORT/TICKET CENTER
16
- PLAT CALENDAR

PLAT NEWS



5名の演奏家が
決定しました!



宮川彬良(ピアノ)



森由利子(ヴァイオリン)



磯部朱美子(チェロ)



高柳安佐子(コントラバス)



中村祐子(パーカッション)

プラット開館5年記念事業 穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース

ミュージカル

「ナイン・テイルズ 〜九尾狐の物語〜」

1月20日[土]13:00 / 18:00 開演

21日[日]13:00 開演

原作＝金是佑

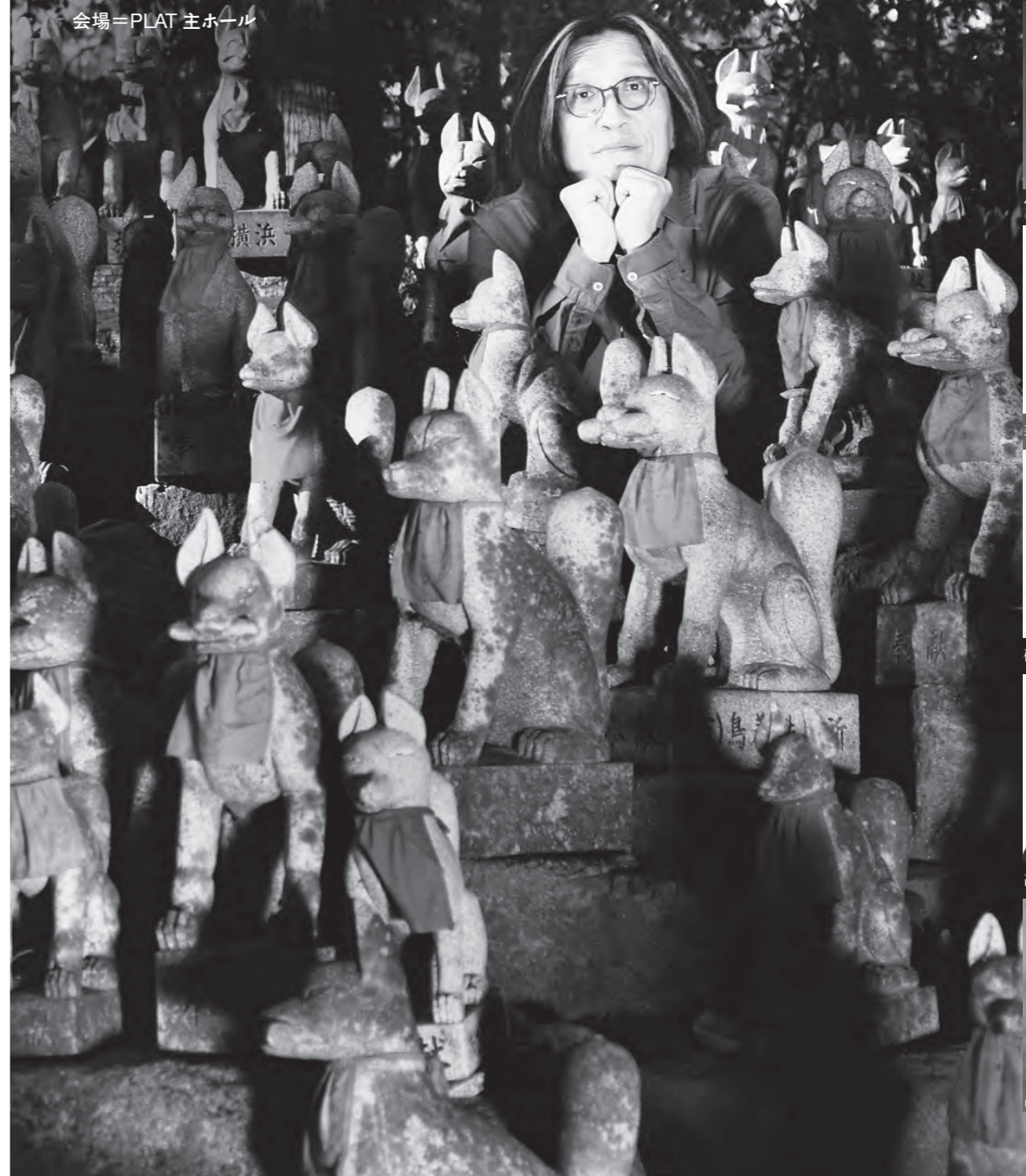
音楽監督・作曲＝宮川彬良

構成・演出＝田尾下哲

振付＝平山素子

出演＝昆夏美、小野田龍之介、JKimほか

会場＝PLAT 主ホール



てたんだってね。だから稲の守り神だってことになって、ご神体としての狐がいるわけだね。考えてみると、『ナイン・テイルズ』の中にご飯が炊けたというシーンがあるのですが、それが「パンでいいか」というと、そうじゃなかったんだということなのね。ご飯が炊けた、炊けるニオイがしてというワンセットが狐と人間の接点のような。ご飯も象徴だったんだということが今日は分かったし。それから、照明デザインの新田祐二先生のこだわる月というのはものすごくいいなと思っているのだけど。月と狐というのはやっぱりセットなのかな。

月のシーンが何箇所かあって、そこの作詞が一番難しかったわけだけど。これもやっぱり象徴だったのだなと。月こそ狂気の始まりでもあるじゃない。やっぱり月に1回女の人って変わったりする。それに、なんとなく月と恋というか、愛というか、そういうものというのは一番近いところにいる。そういういわば歳時記みたいなことに敏感だった劇作家が寺山修司だったと思うのよ。その、寺山修司はそれを自分の短歌の中に、縦横無尽に使っていて。僕らそれが何の意味かよく分からなかったけど、芝居を作っていると段々分かってくる。だから寺山修司の脚本から象徴というものを僕は学んだのだけだね。

その土地の土着性というか、ほんとに生えたり、生まれたりしてきたものの蓄積だってことで、その羅針盤は田舎のほうを向いているわけだね。言葉の指す方向は、人間の起源だったり、宇宙の起源だったり。完全にそれは田舎のほうを向いていて。その寺山の奥に例えば、もう一つ言うところ「宮沢賢治の世界」とか、ああいう世界があるわけでしょ。そういうことを今日は肌で感じていた気がする。この豊川稲荷という、いったら田舎ですよ。だけどそこに自分のたちの表現することのイメージの根っこがあるというところ、それを外さなかったのは、やはり中島さん、さすがだなと思う。必要なことだけやって帰るわけじゃなくてさ。

金さんの本を見た時に、僕は寺山修司をすごく感じたのよ。「ほんとにお前書いたの?」って何遍も聞いたけど、どうやらとうらしい。あの一青年からこの言葉が出てくるというのは、もう驚愕だったのだが、彼もソウル育ちじゃないみたい、地方のデパートの経営者の御曹司だって聞いたけど。金さんの台本を受け取ったときのそれが最初の印象だった。そこに取つかれて、ファンタジーの世界に。だから象徴を大事にして、その象徴の中にドボンと入っていくと、決してその整合性とか時代はどうだとかいう話は見えてこないというか、気にならないはずなんだよね。でも、膿を出してというか、そこも検証したうえで、象徴にドボンと入りこんでいくというプロセスが僕たちには必要なんだろうな。

今日僕がご本尊の前に行って拝んだときに、「あー、来てよかった」って思えたその感覚を劇場というのは与えるものなのよ、本来は。だからそこにこだわりたいね。

今日はいい1日になったと思う。

中島——ありがとうございます。私たちにとっても次への一歩へ向かっていけるいい1日でした。

11月6日『ナイン・テイルズ』の成功を祈願し、宮川彬良さんと豊川稲荷を参拝。たくさんの狐に囲まれて…

中島——初めての豊川稲荷はどうでしたか?

宮川——思っていたのと全然違った。とにかく異国情緒だったね。だからエジプトの遺跡を見に行ったときのバイブレーションとほぼ一緒の状態になりましたね。

中島——金是佑さんの台本を日本語で読まれたときの感想と、今日日本語になっているときと、なにか違ったという思いはありますか。

宮川——韓国語はとにかくスピードが早く、情報がたくさん入る。英語とほぼ同等に入るのでしょ。だからこれを日本語にすることはやはり無理だなと、最初のミーティングのときはそう思う瞬間も多々あったのだけど。段々コツが分かってきた。日本語は情報で伝えてない面がものすごく多いのですよ。ということは、情報ではなく、情緒で伝えている。だから、受け取り側の想像力を利用して、最終的には日本語のほうが多く情報を伝えることになるのだけど。必ずしもその情報そのものを言っていないときがある。そうやって、スキップするわけじゃないし、紙一枚通すわけでもなく。想像力という念を使って、キャッチボールをしているという意味では、すごくコツがあるのだなと思ったのです。

中島——原作を渡されて作っていく過程で、原作者の金さんとかかなりミーティングはあったのですか。

宮川——まったくしなかったですよ。とにかく本が面白かったというか、歌詞が面白かったのです。そこに取つかれたように読解して、金さんが逆に質問してきたぐらいですよ。「これこういう意味で伝わってますよね?」みたいな感じで。

中島——今回、訳詞の安田佑子さんと日本語にしていく過程で、最初るときから何十年も経ち、その当時と彬良さんの人生の情報量というか、経験が異なると思うのですが。

宮川——曲を書いたときは、取つかれていたのよ。例えば「あれ?肝を食べさせると、ここで人間になっちゃうのかな」とか、「死ねない体と言って、死んでるじゃん」。ドラマには必ずそういうところがつきものだけど、そういうことは一切考えなかったし。一切一秒も不思議と思わなかったのよ。ただ、それを日本語にしていく過程で、時代考証まではしないけど、これ大体いつの時代代ということも一応話題にはなったし。そういう通過儀礼を通して、「あ、ほんとにファンタジーの中にいたんだな」と思って、整合性なんてものは考えなかったのね。

今日豊川稲荷というところに行ってもよかったよ。一応、お参りぐらいという気持ちでプログラムされているのかなと思っていたら全然違って。やはり音楽もあるし、もてなしという大変だけど、パフォーマンスもあったし。それからデザインがあって、ただ劇場を貸し小屋として借りるだけだったら絶対触れない面が、今日はすごくあった。月の裏側みたいなところを見せてもらった。そこにはヒントがすごくあって。例えばさっき編集の人と話していたのだけど、狐というのはあぜ道で子どもを育

千年を生きる九尾狐と
儂い生をまっとうする人間との究極の愛の物語

ファンタジーの世界にいた。宮川彬良

音楽監督・作曲

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT シニアプロデューサー

宮川彬良[みやがわ あきら] / 1961年東京都出身。東京藝術大学在学中より劇団四季、東京ディズニーランドなどのショーの音楽を担当。その後、数多くのミュージカルなどを手掛け、舞台音楽家として活躍。代表作に『ONE MAN'S DREAM』『身毒丸』『シャンポーの森で眠る』『ミラクル』『ハムレット』『マクベス』『家なき子』『血の起源』『星の王子さま』『ザ・ヒットパレード』『ムサン』『欲望という名の電車』など。2004年には、松平健のショーのために作曲した「マッテンサンバII」が大ブレイク、舞台音楽からヒット曲を送り出した。2012年4月〜アニメ「宇宙戦艦ヤマト2199」の音楽を担当。2013年歌劇『あしたの瞳』、2015年歌劇『ブラックジャック』を発表した。NHK番組多数出演。今年4月より朝のテレビ小説「ひよっこ」音楽担当。

オーディションから早いもので、一月が過ぎ、ほぼ最終稿に近い台本が届きました。日本上演台本に合わせて前奏曲、そのシーンには子供時代の紅花、梅花の子供時代(狐)が登場します。

これまでも打ち合わせで、神々しい九尾狐のシンボルを登場させたら…等アイデアを提案してくださる平山素子さんにインタビュー致しました。

ミュージカルにはダンサーとして出演した経験はあるが、振付だけというのは初めてなので…と控えめに話す平山さんです。短い時間でしたが、彼女の選び出す言葉は「何かを創り出す、キーワードを語る人」だから、聞き逃さない。

それに不確かな事は口に出さない人ですから、尚更です。

少し、緊張して…

中島——本チラシも出来上がり、第2稿の台本を読んで、何かひらめきなどありました？

平山——まだ具体的に始めてみないとわからない状態

です。まずは、もっと台本を読み込まねば。ミュージカルの振付はこれまでに一度しか担当したことがありません。JKimさんが出演された『蜘蛛女のキス』でした。

いわゆるミュージカルのダンスシーンだからと特別な意識を持たないで臨もうと考えていて、どのように舞踊が機能したらよりイメージを高められるかを模索しているところです。『ナイン・テイルズ』の振付のお話をいただいたときに強く興味を抱いたのは、人間と狐を行き来する様。これを衣装替えだけではなく、裏側に潜む多重性として「変身」する世界をキャストの方と創り出すことができれば凄いことだなと思っています。「変身」は舞踊家にとって究極の到達目標ですから。ぜひアプローチしてみたい方向性です。

中島——できますよ、素子さんは指導するときの言葉、動機付けの説明が上手ですからね。

平山——そうでしょうか？ありがとうございます。リハーサル時はまだ形になっていない脳内イメージを伝えるわけですから、言葉の置き換えなどで説明することは大切だ

と思っていますが、まだまだです。今回はなるべく具体的に動くように一緒に動いてみたい。リハーサル段階での探りあいが一番面白いところだと私は大切にしています。この『ナイン・テイルズ〜九尾狐の物語』は、実は“よくわからない”摩訶不思議がキーになりそうです。生きてるってマジカルな瞬間の連鎖じゃないかと思うのです。瞬時の変身も目を惹いてよいのですが、じわっとゆっくり変化していくさまをこの作品で表現してみたい。どうやって?と聞かれると、まだ…考え中としか答えられないんですが。

中島——そうですね、新作ですしね。また、初めて仕事するスタッフ、キャストが多いと思うのですが、新しいチャレンジなど何かあれば。

平山——そうですね、演出の田尾下哲さんとも初めてですし、新鮮な出会いになると期待しています。私の発想に対して想定外の反応もあるだろうと、とても楽しみではあります。キャスト、スタッフが一丸となって力強い作品を誕生させることができれば最高です。

中島——先日PLATで開催した「ミュージカル・ワークショップ」では、田尾下さんはかなり感銘を受けたと言っておられますよ、お二人の協働で生まれる「何か」楽しみですね。

さて、素子さんは振付だけは初めてと言う事ですが、普段はどのように振付というのか、動きを考えていますか。

平山——台本の1ページから考えて、起承転結、時間軸で考えることはしないですね。まずは、思いついた断片だけで、どのシーンに使うかも決めずに始めてしまう事が多いです。“からだ”の充実感を共有するんです。稽古を重ねて行く過程で、良い感触が見えてくると、このシーンに使えるかな?といった様子でバラバラのイメージを、一気に統合するんです。一見散らばったように見えますが、この方法は気に入っています。からだの行く末に結論ありきでスタートしたくないのかもしれない。

それと、私はあまり群舞の振付は得意ではないですが、今回は全体で何か見えてくるチャレンジをしたいと、今更ながら自分に一つの課題として群舞を設定しています。

中島——ところで、素子さんにはダンサーとしても出演して頂きたかったのに…。ちょっとスケジュール合わなくて、残念ですが…。

平山——そうですね、残念です。しかし、私が最も信頼するダンサーの一人の皆川まゆむさんに表現してもらえますので、期待しててください。

中島——物語になる「狐」ですが、「狐」が登場する物語、何かご存知ですか？

平山——そうですね、九尾狐の話も韓国のテレビドラマで拝見しました。コメディラブストーリーとして描かれていました。それから、手塚治虫さんの漫画の一場面で、犯罪で追われる男が森の中に現れた狐に道案内され逃げおこせた。いつの間にか、狐は若い娘になり村人に歓迎されていくが…。といったものも覚えています。また、アイヌ文化ではクツネは災難などの予兆を伝える神獣であるとか…。

いずれにしても、“きつねにつままれる”とか“いろは狐”何とも不思議な魔力を持っているそうですね。

私は野生のタヌキは出会ったことがあります、クツネは、まだない。本当に出会ったら妙な気持ちになりそうですね。

中島——今回の『ナイン・テイルズ』の物語も不思議な話ですね。ところで、時間、1000年をどう考えますか？この物語1000年を生きる狐が主人公ですから、伺いますか…。

平山——う〜ん。まだ100年くらいなら、その時代を想像できそうですが。例えばニジンスキーの『春の祭典』は100年前だった。1000年となると、ほんとにわからない。でも、日本では1000年ごろに紫式部が源氏物語を書いたと考えると“愛”は永遠のテーマなんですね。時を超えて形を変えつつも“愛”はめぐる。たぶん1000年先も、失ってはならない大切なものを感じることができるのか?という究極の問いかけを“1000年”と表しているのかもしれない。

中島——その言葉が聞けて凄く嬉しいです!!「愛」の物語なので、ファンタジーな時をこの美しいチラシとポスターに込めました。作品創り、宜しくお願いいたします。本日はありがとうございました。

人間と狐を行き来する「変身」する世界を創り出したい。振付 平山素子

聞き手中島晴美 種の国とよはし芸術劇場 PLAT シニアプロデューサー



平山素子[ひらやまもとこ] / 愛知県出身。静謐さと昂揚を自在に奏でるダンサーとして観客の熱い支持を集め、S・ザ・ハロウに『Revelation』(2006年)を提供以降、近年は振付家として意欲的に作品を発表。年明けには、パーカッションistの加藤訓子との共演で、ステイヴ・ライヒの「ドラミング」にソロダンスで挑む、新作『DOPE』の上演を1/26〜1/28愛知県芸術劇場、2/2〜2/4彩の国さいたま芸術劇場にて予定している。また、舞台での活動のほか、シンクロアイススケーティングやフィギュアスケートの日本代表選手の指導を手がけるなど活動は多岐にわたる。筑波大学体育系准教授。motokohirayama.com



オーディションで子役キャストが決定しました。地元・豊橋在住の6歳から10歳の3名です。ご期待ください。



松花役 / 梅花の子供時代役: 鈴木菜里 ※ダブルキャスト、二役交代制



松花役 / 梅花の子供時代役: 樽谷美花 ※ダブルキャスト、二役交代制

紅梅の子供時代役: アラスラン 愛

聴くたびに、新しい「何か」が待っている。
さあ、音楽会に出かけよう！

コンサート

「オーケストラ」と聞いて何を思い浮かべますか？学校の音楽の授業、音楽室のカベに貼ってあった難しい顔をした人たち、難しかったリコーダー…

さて、それでは実際にオーケストラの「コンサート」に行かれたことがありますでしょうか？

舞台にはたくさんの人が楽器を持って並び、客席にはおおぜいの人があつまって、みんなでその場で生まれる、たった一つの音楽を聴く。なんて素敵なことでしょう。

むかしむかしのそのまたむかし。音楽会は王侯貴族のものでした。みなさんご存知のモーツァルトは、ヨーロッパ各地を旅行し、いろいろな場所で演奏を披露していますが、実はどこか雇ってくれる所を探しての就職活動でもあったのです(実際うまくいかなかったのですが)。そして時代が下って、ベートーヴェンの時代。社会も変わってきて民衆が台頭してきます。それとあわせて音楽会もだんだん一般的になってきました。音楽会が催される場所が貴族の邸宅の中から外の「劇場」という大きな会場へと移ってきたのです。

今回、ライブポートとよはして演奏される、ベートーヴェン(1770-1827)の交響曲第6番「田園」ですが、プロ・オーケストラの定期演奏会で演奏される曲目の上位にランキングされる人気曲。この作品が演奏できるのはもちろん「楽譜」がきちんと残っているからなのですが、実は当時と今では楽器自体が違ってきます。例えば、ヴァイオリン。弦を弓でこするのと同じなのですが弦の素材が違ったり、音をゆらして表情をつける「ピブラート奏法」というようなものが当時は無かったりといろいろ現代と違う点があります。(有名なストラディバリウスでも現代の演奏ができるように改良されています)そのため、それぞれの演奏家によって同じ楽譜からでも読み取る「音楽」が違ってきます。なので、もう200年以上昔の作品なのですが、演奏されるたびに新しい「その場で生まれる音楽」になるのです。CDなどで繰り返し同じ曲を、同じ演奏で聴くのとは違い、コンサートで聴くのは毎回なにかが違うはず。そこを探してみるのも楽しみのひとつですね。

「クラシックのコンサートって演奏中に静かにしていなければならないから…」

オーケストラの演奏家は、指揮者はもちろん、隣の奏者、同じ楽器の奏者、そしてその隣の楽器の奏者と対話(実際に言葉で話すわけではありませんが)してアンサンブルを作り上げ、そしてその音がホールに響いている音とも対話をして音楽を作り上げていきます。客席にいらっしゃるみなさんその場で生まれる音楽の「メンバー」なのです。ぜひ「演奏」に一緒にご参加ください。

「どこで拍手をしたらいいかわからないし…」

現代では一つの曲(交響曲や協奏曲だったらすべての楽章)が終わったら拍手をしますが、モーツァルトの時代、モーツァルトの手紙にもあるのですが、交響曲の楽章ごとに拍手がおこって曲が前に進めないこともあったそうです。終わったらすぐに拍手をしなければいけないということもありませんし、全部終わったら指揮者がこつちを向いてくれますからそれを待ってからでも大丈夫。1曲の終わりは大体の時間が当日配られるプログラ

ムに書いてあったりしますので参考にしてみてください。演奏が素晴らしかったら盛大な拍手で応えてあげてください。

「何を着て行ったらいいかわからないし…」

特に「正装」と指定が無ければあまり気にかけることはありません。ですが、せっかくの「音楽会」なのでからちよっとおしゃれしてみたいかたがたがでしょうか。コンサートホールは天井の高い大きな空間なので場所によって暑かったり、涼しかったりすることがありますのでご自身で調整できるものをお持ちになることをおすすめします。

さて、だんだんコンサートが楽しみになってきませんか？

2月の演奏会に向けて、指揮者の飯森範親さん、ソロを務めるチェリストの新倉瞳さんからメッセージをいただきました。

それではみなさん、ライブポートとよはしでの「音楽会」でお会いしましょう！ 東京交響楽団 長久保宏太郎



2月11日[日]16:00開演

指揮=飯森範親 チェロ=新倉瞳

管弦楽=東京交響楽団出演

曲目=チェロ協奏曲(ドヴォルザーク)、交響曲第6番「田園」(ベートーヴェン)ほか

会場=ライブポートとよはし コンサートホール

スラブの名旋律と喜び溢れる自然賛歌

チェコの2大作曲家とドイツの楽聖が描いた美しき音楽の風景

東京交響楽団演奏会

東京交響楽団正指揮者を務めております飯森範親です。

今回の演奏会では、二人のチェコを代表する作曲家、スメタナとドヴォルザーク、そしてドイツ3大Bの一人(バッハ、ベートーヴェン、ブラームス)、ベートーヴェンの交響曲第6番『田園』をお聴き頂きます。

テーマは…自然と人間の営み!

オペラ『売られた花嫁』序曲では、速いテンポがチェコのボヘミアの森のあるところで繰り返される結婚にまつわるドタバタ劇を象徴し、踊りだしたくなる様なリズムが魅力的です。

ドヴォルザークの最高傑作、チェロ協奏曲では何度も共演している新倉瞳さんのソロでお聴き頂きます。ドヴォルザークのニューヨーク滞在が終わりに近づき、望郷の強い思いによって書かれたこの素晴らしい作品を彼女の卓越したテクニックと感性で見事に歌い上げて下さる事でしょう。

1808年頃ウィーン郊外の丘の上、ハイリゲンシュタットで書かれた『田園』。

果実の香りが清々しいそこには、ベートーヴェンが散歩したであろう小径、川のせせらぎ、そして夕刻に突然

訪れる雷雨…そこで暮らす人々の自然と対峙する姿…そんな光景が音楽から聞こえてきます。

それぞれ想像を膨らませ、心の耳でもお聴き下されば嬉しいです。会場皆様にお会いできます事を心から楽しみにしております。

指揮者 飯森範親

皆様こんにちは、チェリストの新倉瞳です。

今回、私が飯森範親マエストロと東京交響楽団さんと共演させて頂きます曲は、ドヴォルザーク作曲の「チェロ協奏曲」。



飯森範親 [いいもり・のりちか] / 桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、2001年、ドイツ・ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督(GMD)に着任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音するとともに、日本ツアーを成功に導いた。国内では1994年以来、東京交響楽団と密接な関係を続け、現在は正指揮者。2006年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞、2007年より山形交響楽団音楽監督に就任。2014年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任。



新倉瞳 [にいくら・ひとみ] / 8歳よりチェロを始める。ドイツにて、ヤン・ヴィミスリッキー氏に師事。11歳で帰国後、毛利伯郎氏に師事。桐朋学園研究科にて堤剛氏に師事。桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業。2003年「いしかわミュージックアカデミー」IMA音楽賞を受賞し、アメリカアスペン音楽祭に奨学生として参加。宮崎国際音楽祭、鎌倉芸術館ゾリステン等に出演。2006年CDデビュー。2010年よりスイスに留学し、バーゼル音楽院にてトーマス・デメンガ氏に師事。15年には、ポルトガルリスボンで開催された「Internacional Verão Clássico 2015」チェロ部門にて第1位受賞。また、カメラータ・チューリッヒのソロ首席チェリストに就任。第18回ホテルオーケラ音楽賞受賞。

東京交響楽団 / 1946年創立。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。海外公演も多く、これまでに57都市で76公演を行ってきた。音楽監督にジョナサン・ノット、正指揮者に飯森範親、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。2016年に創立70周年を記念し、ウィーン楽友協会を含む、5都市でヨーロッパツアーを行い、各地で絶賛された。

「シヤンハイムーン」

3月23日[金]18:30開演

24日[土]12:00開演／17:00開演

作＝井上ひさし

演出＝栗山民也

出演＝野村萬齋、広末涼子、鷲尾真知子、土屋佑壘、山崎 一、辻 萬長

会場＝PLAT 主ホール

この芝居は

〓人間と人間の信頼〓、

〓基本的な人間のあり方〓と、

ああいう時代に日本人がやっていた

〓日本人の可能性〓を

信じて書かれています。

自分がこの芝居を書いて思うのは、

「〇〇人だから…とか

△△人だから…ダメ」ということは

ないということです。

——井上ひさし



激動の中国を舞台に繰り広げる
井上ひさしによる、おかしくも哀しい物語。
聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場ROCK 芸術文化プロデューサー

愛憎が非常に複雑なキャラクターです。野村萬齋

出演

矢作—— PLATも5年目を迎えました。萬齋さんにはオープニング、そして狂言、それから『マクベス』とお越しいただいて、次がこまつ座と世田谷パブリックシアターの共同制作『シヤンハイムーン』ということになります。この企画が決まったのはどういった経緯でしたか。

萬齋——どちらかと言うと、演出の栗山さん主導です。上海租界という、これまた非常に複雑なものです。上海を各国が分断していて、異種特別区というか、日本人街を作っていたわけですね。日本租界と、そこに対して反動的な気運があるという中で、日本人が営む本屋を舞台に、魯迅という、かつて日本に留学し、日本を愛しているが、日本という国は嫌いだという、愛憎が非常に複雑なキャラクターを誰にさせるのかというとき、僕がいい、ということだったのでしょう。

矢作——戦前の複雑な時代の人間を体現できる俳優さんは、きっと萬齋さんしかいないのではないかと思います。

萬齋——日本人の身体を持って、魯迅を演じる。そういう、ある種の特殊性というか、それは必要ですね。一種、舞台の中心になって、衛星のように回る他の5人の出演者がものすごく活躍するともいえるしね。そういう意味でいうと、核になるという役どころかなとは思いますが、やはり、他の人たちとは違う異質感とか。それは身体もそうでしょうし、声もどうでしょうし、なんとなく佇まいも含めた、日本人の中にいる一人の中国人ですものね。そういう演出意図は当然見えてきますよね。

矢作——栗山さんの演出はどこに惹かれますか。

萬齋——ビジュアルから配置から、最初からかなり出来上がっていますね。それはかなり劇作家的な演出に近いなという気がします。面白いのは小沢昭一さんの劇団の演出助手をしていたからか、モノマネがお上手で、結構女性の役をやったりする時の仕草が非常に色っぽかったりします。そういう意味で、見せてくれるのはやりやすいし、的確ですね。細かいことが決まっているから、こうやってほしいというダメ出しが多いわりに小返しがないので、与えられた宿題、課題をどうこなしていくかがすごくきつくもあり、楽しくもあり。でも、やはり井上作品はほんとに手に取るように分かってらっしゃるなという気がしますよね。

矢作——奥さん役の広末さんとの共演は、どういったところが楽しみですか。

萬齋——女優さんに限りませんが、いろんな役者さんとご一緒すると、やはり新しい発見がある。そういう才能と向き合うのは楽しいですね。広末さんは透明感もありながら、演技力もある方です。今回の場合一途な女性、でも一人ちょっと新時代を向いている人でもあるわけです。そこらへんをどんなふうに演じられるのか、私はそういう人からのひとつの憧れと尊敬をとにかく真に受けなければいけないという役柄です。稽古場は、みんなで

苦しむ場所ですが、そういう意味でもいいチームワークになればいいと思います。辻さん、山崎さん、鷲尾さんも、芝居巧者ですので、それは面白いだろうし、勉強させていただくところも多いのではないかと考えています。

矢作——笑気ガスの影響で、人物誤認症とか、失語症になってしまうあたりがコミカルなようで、実はシリアスで、面白いところと思ったのですが、そのあたりは。

萬齋——涙を流しながら笑うような。井上さんの仕掛けとしてはおかしけれど、確かにシリアスというか、いろんなものが出てくる瞬間ですよ。お客さんが、表面的にしか受けとらなければ、単に爆笑で終わらせちゃうかもしれない。そこにある裏を見出してくるという一体感が劇場にあつたらいいですよね。そこが演劇の面白いところですよ。別にお客さんのせいではなくて、そのときのノリで、おかしさが立っちゃうときもあれば、シリアスが立っちゃうときもある。でも、そこが本当に演じる楽しさであり、豊橋のPLATでまたそれがどういふふうになるのか。やはり東京とお客さんの純朴度も違うでしょうし、演劇の悪いところで、ノリでやっちゃうとだんだん見失うところもあるので、やはり西に行ったり、東に行ったりすることで、演じるわれわれが教えられるところもありますので、そういう意味でPLATに行くのは楽しみです。

矢作——今、日中関係が微妙な状況の中、でも、最後に魯迅を取ったのは日本人だったという、とても時代としてはいいという気がします。

萬齋——魯迅は日本が大好きで、医者になるために東北大学に行って、日本語もペラペラになるが、日本が嫌いになってしまう、彼の悲劇もあるし。上海で弾圧される日本人の悲劇も裏で語られつつ、でも周りの5人は魯迅を助ける。周りの人への感謝。どこかに僕は井上先生が透けて見える。魯迅イコール井上ひさしなのか。そういう意味で言うと、お互い支えあい、支えられるということが、最後にしんみり突き刺さるようなものでもありますよね。

矢作——最後に井上ひさしさんの作品の魅力はどういったところに感じられていますか。

萬齋——巧妙なる劇作のうまさというのにはありますが、「むずかしいことをやさしく」と井上先生が言っていますよね。簡潔な言葉で豊かに聞かせる。かなり爆裂しているエネルギーがあつて面白いが、すごくサービス精神のあるところもあり、それから役者にちゃんとスポットが当たるように書いてくださるところがある。役者泣かせのややこしいシーンがあるけど、それをやるのはほんとにマジカルに観客がわく。やはり生きている演劇の本だなという気がしますよね。僕がこれからどういふ作品と巡り合うか分かりませんが、井上作品と出会える楽しさ、うれしさはありますね。

矢作——ありがとうございます。

野村萬齋【のむら・まんさい】
／1966年、東京都生まれ。狂言師。人間国宝・野村万作の長男。重要無形文化財総合指定者。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督を務める。国内外の能・狂言公演や舞台・映画・テレビ出演はもとより、世田谷パブリックシアターでは『まちがいの狂言』など狂言の技法を駆使した舞台や、『国盗人』など古典芸能と現代劇の融合を図った舞台を次々と手掛ける。芸術監督就任後初の構成・演出作『教一日月記・名人伝』では朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞を受賞。構成・演出・出演を務めた『マクベス』は全国各地で上演を重ねるほか、海外公演(ソウル、ニューヨーク、シビウ、パリ)も果たした。

ことばと音楽のコラボレーション「動物の謝肉祭」

演奏:ピアノデュオ/犬塚沙希・鈴木恵深 詩:谷川俊太郎「動物たちのカーニバル」

語りとダンス:天野陽一 語りと歌:白木美貴子 イラスト:宮田香里

2017年9月7日[木]10:00開演/13:00開演



イラスト:宮田香里

ピンチ企画を救った、「動物の謝肉祭」の愉快なイラスト!! 谷川俊太郎 作「動物たちのカーニバル」朗読

本物の芸術に触れることにより豊かな情操を育むことを目的とした、豊橋市立松山小学校の芸術鑑賞会のお手伝いをして、今年で4年目になります。

4年目、少々困難なことが多く、「動物の謝肉祭」は決定していたのですが、ダンスと朗読のコラボが残念ながらできなくて、朗読と音楽のコラボレーションになりました。谷川俊太郎さんの「動物たちのカーニバル」の本がやっと手に入り、「小学生なら使用料は要らないです、楽しんでください」と、谷川俊太郎さんから使用許可に添えて暖かいお言葉もいただきました。白木美貴子さんの美しい歌と朗読、天野陽一さんの歌とダンス、それに、ピアノ連弾(犬塚沙希さん、鈴木恵深さん)、センターのスクリーンには曲目順に、宮田香里さんが描いた動物のイラストが登場します。その可愛いこと!!

谷川さんの詩には、その詩に合わせたイラスト付き絵本ですが、「水族館」の曲目に、「金魚」の詩が書か

れていて、絵本も金魚。ですが、宮田さんのイラストは何と、クジラです!!クラゲもいます!これがコラボレーションの面白いところで、イメージの表現ですから…。

最後にはスクリーンいっぱい動物、白鳥、小鳥もいます。いないのはピアニスト、でも舞台には二人のピアニストがいるのですが。

イラストの面白さにつられて、PLATの舞台スタッフも照明効果をあれこれ考え、パネルを立て、緞帳を上げ下げ、劇場がスタッフの力で新しい企画を創り上げました。

ピンチはチャンスになったようです!!その引き金になったのが、宮田さんがマウスで描いた「動物の謝肉祭」イラストです。動物を見てるって楽しいなあ!!宮田さんのイラストはもっともっと進化しますね。

次の公演の時は、少し、動物も動く事でしょう…。ご期待ください!!

松山小学校での 芸術鑑賞会の これまでの経緯

同じ町内にせっかく素晴らしい劇場が誕生したので、是非、芸術鑑賞会を開催したい。とても熱心な校長先生からの相談でした。1年目は1校だけでしたので予算もなく、開館柿落し公演でご縁のできた志の輔師匠に相談したら、2番弟子の志の春さんを紹介いただきました。英語で落語も語る愉快な落語家て人気のある方ですが、彼とて「小学生を前にすると緊張しますね〜。笑ってくれてほっとしました」と。2年目は、財団の事業でもあった、朗読と音楽のコラボレーション「谷川俊太郎・賢作〜東海道を行く」公演日の翌日に開催しました。谷川俊太郎さんから、「全校生となら、低学年、高学年と分けたほうがいいよ」との助言に従いましたが、俊太郎さんには長い時間お付き合いいただきました。大合唱も盛り上がりましたね!先生も大喜びの公演でした。3年目は、アメリカ人ジャック・リーランドさんの影絵と馬頭琴・ホーミーも子どもたちが喜ぶか心配でしたが、岡林立哉の(馬頭琴・ホーミー)モンゴル話、ジャックさんの英語「はろー! hello!」で生徒の心を瞬時に掴みました!!

過去の公演

1年目、落語実演(立川志の春、志の太郎) 松山小学校
2年目、朗読と音楽(谷川俊太郎・賢作) 松山小学校、向山小学校、松葉小学校
3年目 影絵と馬頭琴(スーホの白い馬) 松山小学校、向山小学校
4年目 朗読と音楽(動物の謝肉祭) 松山小学校

宮田香里[みやた・かおり] / 1973年、愛知県豊橋市生まれ。京都造形芸術大学美術科彫刻コース卒業。2000年よりイラストレーターとして活動を始め、書籍、広告、商品パッケージ等のイラストレーションを制作。挿絵に、「爺々と婆の話 夢見橋」「いるかの手紙」「三河の旗本退屈男」(春夏秋冬叢書)、「仏像の見方がすぐわかる本(カルチャー図解)」(主婦と生活社)、「古寺のひみつ」(永岡書店)など。

高校生と創る演劇

「ガンボ!それはフクザツな生まれの料理の名前 あるいはフクザツな生まれの あたしらの歌」

作:青木 豪 演出:稲葉賀恵 ステージング:下司尚実 演出助手:萩原亮介

2017年11月3日[金]~5日[日]

4年目となる「高校生と創る演劇」シリーズ。9月下旬から公演本番まで約40日に渡る滞在制作を駆け抜けた、演出らスタッフのみなさんに、お話を伺いました。

終わってみての率直な感想を。

萩原——朝起きて、稽古場来て、夜集まって、「また週末か」の毎日で、高校生達も学校との両立で、これは大変だなと思いながら。一気に作って、本番期間に入って、気がついたら終わったという感じです。

下司——生活と演劇が、いつもより、クロスした状態で、東京にいるときと違って、この芝居のためにこの日々を生きている感じが濃厚ですね。

稲葉——高校生でなくても書き下ろしは大変です。台本が読み込めずに変わっていく。高校生はその手管が備わってないから、きちんと準備をとという気持ちもありつつ、日々変わる。高校生をきちんと見たいうえで、どう合う形にしていくのかが、ものすごく難しかったです。

思っていた高校生像との違いはありましたか。

稲葉——高校生と違って接しないようにしていました。でもやはりプロと違い、いろんな方法を使わないと扉が開かない。「どこを叩けば」を探し続ける1ヶ月だった。見てほしい、認めてほしいという欲求、熱が、大人よりはるかにあって、同時に、それを「だめ」と言った瞬間のへこみ方も半端なものではない。遠慮するのではなく、自分が伝わりにくい言葉を使っていると、勉強になった。

萩原——よくよく聞くと、「この役はこういう人だから、こうやりたい」と、それぞれがしっかり準備していて。でも初めはそれをキャッチできなくて、1対1で話した後で稲葉さんや下司さんに伝えていました。内容も新鮮でした。将来演劇の道に進みたい高校生に一言。

下司——やはり好きだけでもやっていけない。本当だったら出会わなかった人たちとこうして、1つのものに向かって、紆余

曲折して、泣いたり、笑ったりしたというのは宝物だと思う。この企画が続いて、芝居を見るでもよし、仕事上のコミュニケーションでもよし。演劇が根付いて豊橋が豊かな町になるといいですね。

稲葉——芝居は客観的に見て「いい」ときと、役者が「いい」と思っている時は全然違うということを感じたのは、とても大事なことだと思います。演劇は相手を受け入れ、自分がオープンにならなければならない。このような機会がもっと増えればいいと思います。

高校生スタッフについては、いかがでしたか。

萩原——プロの演出部が稽古場にいないから、「なんで分からないんだ」と、ムキになってやっていた。要素が多い芝居だから物の把握とか、すごくハードだったと思うのですが、それについてきたことも、びっくりした。

稲葉——これ程動くとは思わなかった。「これは100均で」とか、「リストにしてきて」と言う次の日にやってくるのか。学校もあるだろうに。集中の度合いが違うと思った。

最後に、この企画を経てみなさんのこれからのことを。

萩原——舞台に立ちたいですね。多分、触発されたんでしょうね。1ヶ月新しいエネルギーのそばにいて。

下司——毎日毎日、体をノックし続けて、頼もしく対応してくれるようになった。アンテナを植え付けられたのかなと、それはちょっと楽しいよね。

稲葉——共同作業で作っていくことがこんなに色濃かったのは初めて。みんなが高校生のためになにができるのかに尽力するのを見たときに、自分のやり方を突き詰めるだけではダメだと思った。でも、作品の完成度が高くないと、高校生との楽しい思い出だけでは難しく、嫌なことは嫌だし、そこはやはり変わらない。それを再認識したうえで、自分の中の表現をオープンに出していけるといいなと思いました。

ありがとうございました。



撮影:伊藤華織



託児サービス対象公演
要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様¥500。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

マイセレクト4 対象公演
マイセレクト4

**チケットの購入・お問合せ
プラットチケットセンター**

- 劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]
- オンライン <http://toyohashi-at.jp>[24時間受付・要事前登録]

U24・高校生以下割引ご案内 ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

- 料金=U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
- 購入方法=各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
- その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

北九州芸術劇場プロデュース「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」



撮影:木寺一路

「赤道の下のマクベス」



池内博之

平田 満

「1984」



井上芳雄

ともさかりえ

大杉 蓮

「百年の秘密」



初演舞台写真 撮影:引地信彦

小・中学校へ向うでのワークショップ&
ワークショップファシリテーター養成講座 報告会



ダンス・レジデンス



Rie Tashiro
photo Nozomi Teranishi

2018/1/20 [土] 13:00開演 / 18:00開演

21 [日] 13:00開演

プラット開館5周年記念事業

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース

ミュージカル「ナイン・テイルズ～九尾狐の物語～」

ミュージカル界きっての実力俳優たちを迎え、美しく力強い音楽とともに、千年を生きた九つの尾を持つ伝説の九尾狐[クミホ]と人間の究極の愛を描きます。●原作=金是佑●音楽監督・作曲=宮川彬良●構成・演出=田尾下哲●振付=平山素子●出演=昆夏美、小野田龍之介、JKim[ジェイキム]ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席7,000円、A席6,000円ほか

好評発売中
21日のみ

2018/1/27 [土]・28 [日] 14:30開演

PLAT小劇場シリーズ

チェルフィッチュ

「三月の5日間」-リクリエーション-

2005年岸田國士戯曲賞を受賞し、日本現代演劇界に大きな衝撃を与えた岡田利規/チェルフィッチュの代表作。活動20周年を記念して、20代前半の若い新キャストとともに再創作。●作・演出=岡田利規●出演=朝倉千恵子、石倉来輝、板橋優里、渋谷采都、中間アヤカ、米川幸リオン、渡邊まな実●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか

好評発売中
マイセレクト4

2018/2/11 [日] 16:00開演

東京交響楽団演奏会

曲目=チェロ協奏曲(ドヴォルザーク)、交響曲第6番「田園」(ベートーヴェン)ほか●指揮=飯森範親●チェロ=新倉瞳●管弦楽=東京交響楽団●会場=ライブポートとよはし コンサートホール●料金=[全席指定]S席4,500円、A席3,000円ほか

好評発売中
ライブポートとよはし

2018/3/3 [土]・4 [日] 14:30開演

市民と創造する演劇

「とよはしの街の物語」

2017年3月アールスペースにてミュージカルスタイルで上演した「とよはしの街の物語」はしっ子が、主ホールへ会場を移し、新たに決まった市民出演者とともに再創造したとよはしの街の物語をお届けします。●会員先行=2018年1月6日(土)●一般発売=1月20日(土)●作・演出・音楽=糸井幸之介●ドラマチック=木ノ下裕一●出演=オーディションで選ばれた一般市民●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般2,000円ほか

2018/3/8 [木] 19:00開演・9 [金] 14:00開演

劇団四季

「ジーザス・クライスト=スーパースター

エルサレム・バージョン」

キリスト最後の7日間を描く、劇団四季ミュージカルの原点と言える本作の限定ツアー公演です。●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席8,640円、A席6,480円、B席3,240円※3歳以上有料(3歳未満の着席観劇有料)

好評発売中

2018/3/10 [土] 14:30開演・11 [日] 13:30開演

PLAT小劇場シリーズ

北九州芸術劇場プロデュース

「彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。」

「北九州」をモチーフに作品を創る北九州芸術劇場プロデュースシリーズ最新作がPLATに初登場。PLATプロデュース『荒野』でも作・演出をつとめた桑原裕子が、街の匂いがする群像劇を描きます。●会員先行=2018年1月13日(土)●一般発売=1月27日(土)●作・演出=桑原裕子●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか

マイセレクト4

2018/3/23 [金] 18:30開演

3/24 [土] 12:00開演 / 17:00開演

「シヤンハイムーン」

井上ひさしによる評伝劇の最高峰! 1934年、激動の中国を舞台に、日本を憎みながらも日本人を愛した中国人作家・魯迅とその妻、そして彼らを匿した日本人を緻密に描いたせりふ劇に、野村萬斎をはじめとする実力俳優陣が挑みます。●作=井上ひさし●演出=栗山民也●出演=野村萬斎、広末涼子、鷲尾真知子、土屋佑壱、山崎 一、辻萬長●会場=PLAT主ホール●前売予定枚数終了。今後の販売については、お問合せ下さい。

24日12:00のみ

2018/4/11 [水] 18:30開演

「赤道の下のマクベス」

第二次世界大戦のBC級戦犯として収容されていた日本人と元日本人だった朝鮮人の物語。戦争とは、国家とは…。鄭義信が新たに描く「記録する演劇」にどうぞ期待ください。●会員先行・セット券=2018年2月3日(土)●一般発売=2月18日(日)●作・演出=鄭義信●出演=池内博之、浅野雅博、尾上寛之、丸山厚人、平田満ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席5,500円、A席4,500円、B席3,000円ほか※『1984』(5/20)とのお得な2公演セット券(S席)10,000円



「三月の5日間」

2018/5/8 [火] 18:00開演・9 [水] 13:00開演

ナイロン100°C45thSESSION

「百年の秘密」

ナイロン100°CがPLATに初登場。2012年の初演以降、演出家自らがどうしても再演したかったという本作を、劇団25周年を記念して6年ぶりの再演。●会員先行=2018年2月10日(土)●一般発売=2月24日(土)●作・演出=ケラリーノ・サンドロヴィッチ●出演=犬山イヌ、峯村リエ、みのすけ、大倉孝二ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席5,000円、A席4,000円、B席3,000円

2018/5/20 [日] 13:00開演

「1984」

ジョージ・オーウェルの傑作小説を原作に、監視社会の恐怖を描いた意欲作。演出は、2016年9月に新国立劇場演劇芸術参与に就任した小川絵梨子が務めます。●会員先行・セット券=2018年2月3日(土)●一般発売=2月18日(日)●原作=ジョージ・オーウェル●脚本=ロバート・アイク、ダンカン・マクラミン●翻訳=平川大作●演出=小川絵梨子●出演=井上芳雄、ともさかりえ、大杉蓮ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席5,500円、A席4,500円、B席3,000円※『赤道の下のマクベス』(4/11)とのお得な2公演セット券(S席)10,000円

2018/2/18 [日] 13:30開始

「小・中学校へ向うでのワークショップ&

ワークショップファシリテーター

養成講座 報告会」

PLATが今年度実施した、小・中学校でのワークショップと養成講座の事例紹介と来場頂いた方々との意見交換を行います。●講師=すずきてら、柏木陽、吉野さつき●会場=PLAT創造活動室B●料金=無料●定員=40名程度(申込順)●申込=①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより

豊橋アーティスト・イン・レジデンス2017

「ダンス・レジデンス」

12/19 [火]~27 [水]

Rie Tashiro (AYATORI)

公開企画①ダンスワークショップ

日程=12月22日[金]~24日[日]

●会場=PLAT創造活動室A

公開企画②成果発表会

日程=12月24日[日]17:00開始

●会場=PLAT創造活動室A●料金=無料●申込=不要

※詳細は劇場までお問い合わせください。

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・整理番号付]各回500円

2018/1/11 [木] 19:00開演

「心躍るリズムとメロディの世界」

Le deux mai [ル・ドゥーメ] 杏名大地(打楽器)、鈴木結花(ピアノ)

2018/2/28 [水] 19:00開演

「音の降る夜」

Ensemble Chouette [アンサンブル・シュエット] 加藤英子(オーボエ)、勝田千尋(クラリネット)、古川真帆(ファゴット)、井上陽葉(ピアノ)

■関連企画

12/22 [金] 13:00開演 / 18:00開演

「PLAT Christmas Live 2017」

平手裕紀トリオ(ピアノ&トランペット、ベース、ドラム)、井垣壮太(ピアノ)●会場=PLATアールスペース

2018/3/16 [金] 14:00開演 / 17:00開演

連弾 二台ピアノコンサート「デュオの世界へ」

白井那奈(ピアノ)、長澤優花(ピアノ)●会場=PLATアールスペース

●料金=無料(要整理券。12月22日[金]よりPLAT1階窓口にて配布開始。)



穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 芸術文化アドバイザー変更について

平成23年4月より芸術文化アドバイザーとして務めていただいた平田満さんが、平成30年3月31日をもって退任する運びとなりました。平成30年4月1日より平田満さんに代わり、芸術文化アドバイザーとして桑原裕子さんが就任する予定です。このことにつきましては、平成29年10月2日(月)に、豊橋市役所にて記者発表をおこないました。桑原さんは、穂の国とよはし芸術劇場プロデュース「荒れ野」で作・演出をご担当いただきました。平田満さんは、来年度以降はアソシエイトとしてご協力いただく予定です。退任について、平田さんからメッセージをいただきました。

芸術文化アドバイザー退任について 平田 満

私が芸術文化アドバイザーに就任して7年、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT が開館して5年になりました。アドバイザー就任以前から劇場のコンセプト、設計デザイン、間取り、館名公募から決定、ロゴマーク選定などに、前・芸術文化プロデューサーの中島晴美さんや財団の方々とともに携わりましたが、開館後はスタッフの拡充とともに公演数、内容、地域との関わり、利用頻度など、PLATの充実ぶりには目を見張るものがあります。

芸術文化アドバイザーとしての私の役割は、「よい劇場を作ること」と「いろんな活動を提示すること」だと考えました。そして舞台出演、リーディング、ワークショップなどの活動をしてきました。

PLATも芸術文化アドバイザーも草創期の次の段階として、より広範な、より深化した活動が求められています。これからは多くの人たちによる多様な活動が行われ、さまざまな才能、人材による創造が常に生まれる劇場になっていくべきでしょう。そのためにも、まずは新たなアドバイザーを招き、新鮮な感性や考えで動いていただこうと考えました。組織も芸術も新陳代謝が必要です。それが多様な価値観を生み出し、継続する力になります。

私もしばらくはアソシエイト(仲間・協力者)としてお手伝いしていきます。今後の PLAT が、一般市民にとっても創造する者にとっても、クリエイティブな「生きるよろこび」に満ちた劇場になることを願ってやみません。



芸術文化アドバイザー 平田 満の ちよこつとエッセイ

第26回「ユズリハ」

ユズリハという常緑樹があります。お正月の鏡餅に使われる楕円形の葉がユズリハです。我が家の隣家にもありますが、かなり高い木で大きな葉っぱが目立ちます。若葉が出た後、古い葉が譲るように落葉することから名付けられたようで、家が代々続くようにという縁起物だとうです。

私もユズリハのように芸術文化アドバイザーを退任する決意をしました。いつも同じように見える常緑樹でも、新しい葉に代わることでより繁り、幹が太くなっていきます。後任にと推薦した桑原裕子さんは、12月公演の「荒れ野」でもお分りのようにとても力のある作、演出家です。リーディングやワークショップ、地域の演劇との共同作業にも詳しく、そして素敵な女優さんでもあります。安心して後を任せられるのと同時に、PLATの新たな展開が楽しみでもあります。

PLATの芸術文化アドバイザーにと頼まれたときから、私の仕事は道普請だと思っていました(基盤の整備ということでしょうか、手仕事、肉体労働のニュアンスを持つ、道普請という言葉が私は好きです)。後の人たちが歩きやすいように道を作っておけば、いろんな人がそこを歩き、さまざまな出会いや交流が生まれ、新たな活動が行われる可能性が高まります。この五年間、スタッフ、関係者の方々のおかげでとても良い道普請ができたと思います。これからの課題は、PLATでより多くの、より多様な人たちとどんなことができるか、そしてそこでどんな「よろこび」を見つけられるかです。

幼い頃、正月前には家で餅つきをするのが恒例でした。父母、祖父母、子供たち総出で早朝からのし餅、あんころ餅、鏡餅などを作ったものです。この年になると父母や祖父母の気持ちがよくわかります。昔を振り返り、「よろこび」がつながっていくというのはそういうことかな、と思ったりします。

SUPPORT

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

YOSHINO ASSOCIATES architects engineers
http://www.440a.co.jp

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋 竹内産婦人科) 検査OK

ケンチノノロ
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.q.0170@gmail.com

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市電赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 **穀きく宗**
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司 創業江戸

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心 安全な地下駐車場
パ-ク500 ソウの親子の看板が自印
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
塩之谷整形外科
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 **命あくわ**

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の**豊川堂**
本店54-6688番/カルミア店55-2810番/アビタ店54-6351番

練物專家 **たけなはでん**
ココラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

JEANS SHOP YAMATO
豊橋 つつじが丘 / 豊川 千歳通り

生活にファインクオリティ
sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]

プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

特典

- 1 公演情報をメールでご案内します。
- 2 インターネットでチケット予約ができます。
- 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。

※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

年末年始休館のお知らせ

穂の国とよはし芸術劇場は、下記の期間休館いたします。
平成29年12月29日(金)~平成30年1月2日(火)
なお、上記の期間中プラットチケットセンターは電話および窓口とも休業いたします。
チケットのご予約は、インターネットをご利用ください。
24時間対応いたしております。
休館中のチケットのお引き取りについてはご予約の際にご確認ください。

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT